Vol. I. THE HEAVENS Jan. 1921

No. 3.

第一卷

天界

一月號

第三號

內容

宇力宙の引（口繪）……三三
理學博士 新城新藏

最近の新城博士

反射望遠鏡の話（附世界的大望遠鏡一覽）……三五
理學士 百濟教猷

獅子座流星群の觀測報告 四三
古川龍城

余の天文好となりし徑路について……四二
水野千里

雜報
大正十年度の星界……四五
來年の彗星……四五

▲▲▲質疑三件▼▼▼……四六

英文欄 On Fixed Stars……四七

同好會報……四八

特別附錄 天文語彙（其三）

一月の天象

太陽＝二十日午後十一時 磨羯宮から寶瓶宮に入る

月＝一日午後一時半 下半月（乙女座）
九日午後二時半 新月
十七日午後三時半 上半月（双魚座）
廿四日午前八時 滿月（蟹座）
廿一日午前五時 下半月（天秤座）

水星＝月初射手座太陽の西にあるが十七日上合、それから輝管天山羊座にく。觀望には全然不適。

金星＝月初水瓶座を西行、廿三日魚座に入る太陽に遲るゝこと三時間餘 **光輝** [illegible] 々 **強**

大 九日 **火星** [illegible] 離廿五分。同日又天王[illegible]に接近距離 **四十分**

火星＝**金星と并列又天王星と**接近——九日夜三休共 **同時に望遠鏡**內に入る。 **西天の偉觀！**

木星＝獅子座シ星南隣に **停滯** 光輝燦然。附近を蹠す

土星＝乙女座ゼ星と極めて近い。木星と同じく **停滯不動**。輪はまだ細い

天王星＝水瓶座シ星北隣を徐行、西から火星と金星に追ひ越される。双眼鏡で觀望好適

海王星＝蟹座デ星の西五度を徐ろに逆行。一吋以上の望遠鏡で見ゐる。

會告

○一月例會　來る一月二十九日(土曜)午後三時、京都帝國大學理學部物理學教室にて開會、左の講演あり。(靴又は草履)

未定　理學博士　新城新藏氏

○大阪講習會　我が同好會主催の第二回講習會を開く。

時日　大正十年

學科及講師　新時代の天文學　理學士　山本一清氏

會場

會費

申込

Contents of THE HEAVENS No. 2.——edited by I. Yamamoto.

Pvof. (*Froutispiece*)——*Prof. S. Shinjo,* Universal Gravitation——*K. Kudara,* Story of Reflecting Telescopes——*R. Furukawa,* Observatious of Leonid Meteors——*Cl. Mizuno,* How I became interested in Astronomy——Heavens in 1921——Comets in 1921——Queries——Our English Page: On Fixed Stars——Notes of S. A. F.

APPENDIX: *T. Ebi,* Astronomical Lexicon (3)

Published by the Society of Astronomical Friends,
Kyoto University Obs rvatory, Japan.

誰でも ←—— 天文同好會 ——→ 入會歓迎

天文同好會規則（第三版）

第一條　此ノ會ヲ天文同好會ト云フ

第二條　此ノ會ハ天文學ノ了解ヲ進メ兼ネテ同好者相互ノ親睦ヲ增スノガ目的デアル

第三條　事務所ヲ京都市吉田町京都大學天文臺内ニ置ク。又會員密集ノ地ニハ支部ヲ置ク事ガアル

第四條　此ノ會ハ右ノ目的ヲ達スル爲メ次ノ事業ヲ行フ

一、講演（例會毎月一回　大會年一回　其他臨時會）

二、講習（各地デ臨時ニ開ク）

三、雜誌圖書ノ出版（雜誌ハ月一回會員ニハ無代配布、圖書ハ臨時）

四、實地觀測（第一部、啓發的、甲觀望、乙見學、第二部、研究的、甲流星、乙變光星、丙彗星

第五條　此ノ會ノ目的ニ贊同スル者ハ誰デモ會員ニナレル

但シ毎月金貳拾錢ノ割デ納付スル必要ガアル

申込ノ際ハ住所職業生年ヲ記入セラレタイ

第六條　特ニ一時金五拾圓以上ヲ寄附スル者ヲ名譽會員トスル

第七條　此ノ會ノ幹部ハ次ノ通リ

幹事　二名　會計　一名

此ノ幹部ハ總會デ選擧セラレル者デ任期ハ一個年

第八條　幹部ハ會員ノ中カラ次ノ係リヲ指名囑託スル

講演係　一名　編輯係　三名　觀測係　一名　寫眞係　一名

幹部（第一期）

幹事　山本一清

同　古川龍城

會計　滑川忠夫

天界　第一號（創刊號）目次

十吋反射鏡（口繪）——天文同好會、趣意書——天文書

星の光度（附一等星表　山本理學士）——邦文天文書

總覽（古川助手）——所感（冷泉伯爵）——天文と

旅行（水野千里氏）——テンペル百濟彗星——ロッキャ氏逝く——十吋反射望遠鏡到着——質疑三件——天象の注意事項——附錄天文語彙（あの部）

天界　第二號（十二月號）目次

小遊星發見寫眞（口繪）——小遊星の發見（山本理學士）——星界に趣味を起した動機（津田雅之氏）——邦文天文書總覽（古川助手）——白鳥座

第三新星——オリオン星雲の距離——學術研究會の天文部——新刊紹介（一戸博士著天文學下卷）——質疑二件——一戸博士逝く——Discovery of Nov. Cygni (Deming)——同好會報——附錄天文語彙（あの部續き）

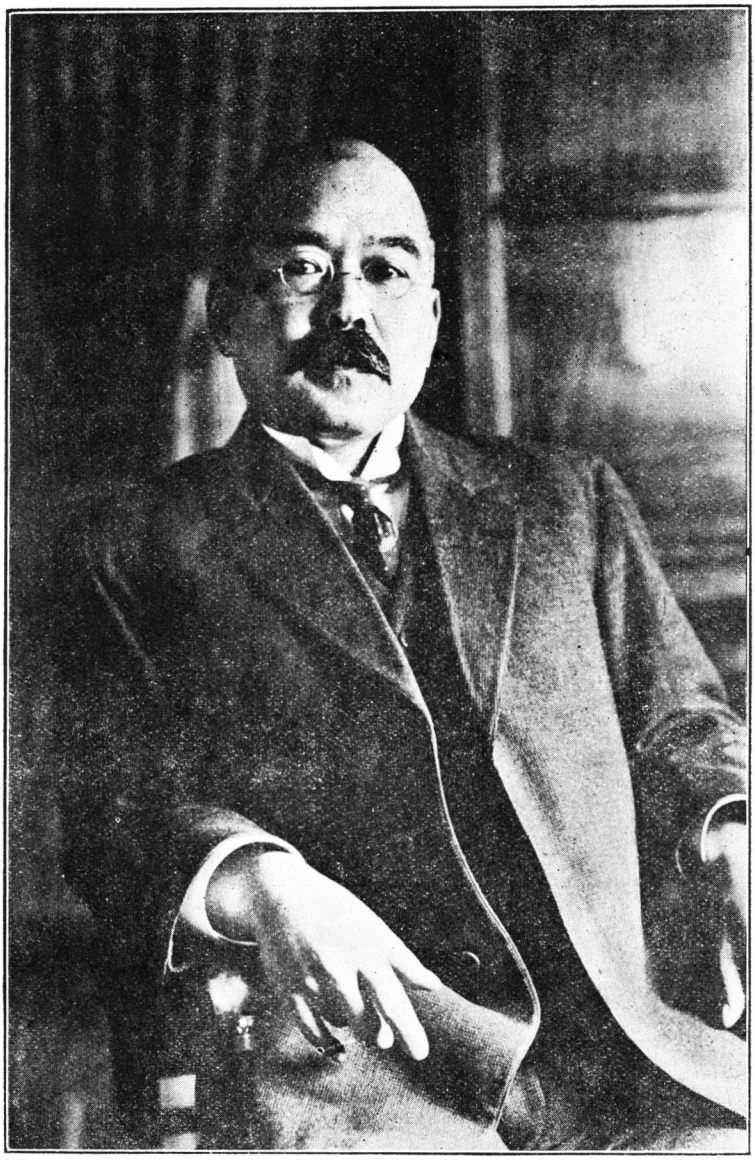
天文エハガキ（近刊）同好會發行

第一集　天文器械の部（七吋望遠鏡、十吋望遠鏡、子午儀と天文時計、太陽寫眞儀、天文經緯儀）

第二集　京都天文臺（新城博士、山本助教授と新星、百濟理學士と彗星、佐々木氏と彗星、スタフ）

第三集　天體寫眞の部（近江隈石、太陽、鳥島皆既日食、星のスペクトル、新星と其のスペクトル）

定價貳拾五錢　會員には貳拾錢）　同好會發行



最近の新城博士

編輯室にて

會員諸方の等しく目出たい新年を迎へられんことを祈ります。吾が會も、雜誌もどうやら落ち付いた氣持で生長して行きます。會として始めてのお正月に前途多望を思つて喜びは一層大きいです。▲今號には新城博士の玉稿をいたゞきましたので、更に此の好機に博士最近の御影を頂いて卷頭を飾りました。博士は宇宙進化論のカーソリチーとして、先年御出版の著述により會員諸方にもよく御存じのことと思ひます。寫眞は鹽田氏得意の手腕によつて撮られました。▲更に又百濟理學士の反射望遠鏡の話は此の號の總ての讀者を喜ばせる快文字だと信じます。此文は去る九月に既に出來上つてゐたのですが、編輯の都合で今日まで延びたことは同理學士に御わび申上げます。此の文を御讀みの時は必ず第一號の口繪の十吋を見て下さい。▲吾が會が成立の最初から實地觀測を一事業として高調してゐるのは皆樣御存じの通り、此の事業のプログラムは追々發表したいと思ひますが、先づ此の號に模範觀測として古川氏の流星の報告を載せました。多くの會員が此の種の觀測を實行せらるゝ事を望みます。▲中村氏のすばるのスケッチを載せたのも此の意味です。

事務室より

別頁の如く支部が六つ設置されました。愉快なことです熱心な支部幹事諸氏の御働きを祈ります。

支部の經營については、こゝに一つ問題があります。「支部の活動方針、支部と本部との關係、支部の會計問題等、之れ等について會員諸君の好い御考へを御教へ下さい。▼會には毎日新入會者があります。

大正九年十二月二十四日印刷
大正九年十二月二十五日發行　（定價金貳拾五錢）

（天界第三號）

編輯兼發行者　京都帝國大學天文臺內　天文同好會
振替貯金口座大阪五六七六五番

印刷者　右代表者　京都市夷川川端東入下ル　山本一清

印刷所　京都市夷川川端東入下ル　佐藤靜　弘文堂印刷所

A
JAPAN